

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 51 号:2018 年 6 月－8 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2018年上半期のウズベキスタンのGDPは前年同期比4.9%増の153兆スムに

公式データによると、国民一人あたりのGDPは前年同期比3.1%増の約465万スムに達した。部門別にみると、最も成長率が大きかったのは9.7%の建設部門であった。鉱工業の成長率は6.1%、農業は2.7%、サービス部門は5.0%であった。

上半期の固定資本投資は総額41兆2,000億スムであった。そのうち53.6%は外部から調達した資金、46.4%は企業や組織の自己資金であった。

8月1日時点の金・外貨準備は273億ドルで、そのうち外貨準備は135億ドル、金準備は約137億ドルであった。金保有量は1,130万オンス（351 t）であった。

2018年上半期の国家予算の税収は24兆2,000億スム

現在、ウズベキスタンでは約43万の法人が登録されており、公式に登録されている個人事業主の数は約23万である。その一方で、ウズトランスガス（5.1%）、ナヴォイ採鉱精錬コンビナート（5%）、アルマリク採鉱精錬コンビナート（3.1%）、ムバレクネフチェガス（2%）、UZBAT（1.8%）、ブハラ製油所（1.8%）をはじめとする大手企業20社が国の税収総額の約3分の1を納めている。その他、Beeline（1.5%）、シュルタン・ガス化学コンプレクス（1.4%）、フェルガナ製油所、キジルクムセメント、アジアトランスガス、ウズベクエネルギー（各1.2%）、そしてタシケントヴィノ・コンビナート、シュルタンネフチェガス、ウズコルガスケミカル、Ucell（各1%）も高額納税事業者である。ウズベキスタン・テミル・ヨラリ（0.9%）、コカ・コーラ（0.8%）、アハンガランセメント（0.6%）、ムバレク・ガス精製工場（0.5%）も上位20社にランクインしている。

財務省がウズベキスタンの対外債務予測を発表

財務省の推計によると、2018年末にはウズベキスタンの対外債務はGDPの23.7%に増加する見込みである。2017年末時点の対外債務はGDPの18.5%であった。融資を受けている主な国際金融機関は、アジア開発銀行（ADB）、世界銀行（世銀）、イスラム開発銀行で

ある。2018年には政府債務の返済に9,527億スムが充てられ、そのうち金利の支払いは2,240億スム、元本の返済が7,287億スムである。

世銀が2018年のウズベキスタンのGDP成長率予測を5%に下方修正

当初の予測では成長率は5.6%とされていた。2019年の成長率予測も6.3%から5.1%に下方修正された。同時に、世銀は、為替レートの自由化、税制改革、国営企業の民営化、銀行セクター改革などの構造改革により長期的な成長の見通しは改善されると指摘している。

ADBも2018年のウズベキスタンのGDP成長率予測を2017年9月発表の6.8%から5.5%に下方修正した。2019年の成長率予測も7.3%から5.6%に下方修正された。国際通貨基金（IMF）は2018～2019年のウズベキスタンのGDP成長率を5%前後と予測している。一方、ウズベキスタン中央銀行は、2017年12月、2018年の成長率予測を5.5～6%と発表した。

2018年上半期のウズベキスタン向け国際送金額は約23億ドル

ウズベキスタン中央銀行は、2018年上半期の個人による送金額は前年同期に比べて14%増加したと発表している。

貿易

2018年上半期のウズベキスタンの貿易額は177億ドルに

輸出額は78億ドル、輸入額は99億ドルであった。貿易収支は21億ドルの赤字であったが、そのうちCIS諸国との間では8億ドル、その他の国々との間では13億ドルの貿易赤字となった。

CIS諸国のうち主な貿易相手国はロシア、カザフスタン、ベラルーシ、ウクライナ、キルギスおよびタジキスタンで、この6カ国が貿易総額の28.4%を占めている。その他の主な貿易相手国は中国、トルコ、韓国、アフガニスタン、ドイツ、米国、ラトビア、イラン、フランスで、この9カ国が貿易総額の33.8%を占めている。

輸出額に占める商品の割合は77.8%で、そのうちエネルギー資源・石油製品が19.2%、食品が8.7%、化学製品が6.9%を占めた。サービスは輸出額の22.2%を占め、前年同期に比べて20.3%増加した。そのうち主なものは輸送サービスおよび旅行関連サービスである。

輸入額のうち主な割合を占めたのは、機械・機器（39.4%）、化学製品（13.4%）、食品（9.6%）である。サービスは輸入額の12.4%を占め、前年同期の24.5倍に増加した。サービスの輸入のうち主な割合を占めたのは、観光、輸送、通信、情報、コンピュータおよび建設サービスであった。

中央アジア諸国との貿易額は前年同期に比べて46%増加したが、金額ベースでは比較的少ない約18億6,000万ドルにとどまった。貿易額が最も大きく伸びた相手国はカザフスタンである（前年同期比52%増）。

2018年1～7月期の食品貿易は約30%の入超に

食品の輸出額は6億6,240万ドル、輸入額は9億7,170万ドルであった。食品分野の主な貿易相手国は、ロシア、カザフスタン、ウクライナを中心とするCIS諸国である。

2018年1～7月期のCIS諸国向けの食品輸出額は4億4,660万ドル、同諸国からの輸入額は7億2,190万ドル以上であった。輸出額のうち最大の割合を占めるのは生鮮果実・野菜製品（4億7,500万ドル以上）で、輸入額のうち大きな割合を占めるのは砂糖（2億4,420万ドル）および小麦（1億5,380万ドル）であった。

金融・投資セクター

米国の海外民間投資会社(OPIC)がウズベキスタンにおける活動を再開

8月17日、ウズベキスタン議会上院のサディク・サフォエフ第一副議長とOPIC代表団の会談が行われた。今年5月のミルジヨエフ大統領の米国訪問の結果、共同声明「ウズベキスタンと米国：戦略的パートナーシップの新時代の幕開け」が発表され、総額約50億ドル相当の合意に関する二国間「ロードマップ」が作成された。OPICのウズベキスタン駐在事務所は、融資や保証の供与を通じてウズベキスタン市場における米国企業の投資を支援する予定である。

欧州復興開発銀行(EBRD)はウズベキスタンに10億ドル以上の投資を行う計画

8月1日、ミルジヨエフ大統領とEBRD代表団の会談が行われ、同行のウズベキスタンとの協力拡大の意向が確認された。現在、EBRDは、農業インフラ開発、住宅建設、エネルギー部門と公営事業の設備近代化、企業支援およびその他の分野における総額10億ドル以上の有望プロジェクトについて検討している。そのうち約6億ドル相当のプロジェクトについては数カ月以内に承認される予定である。

EBRDのウズベキスタンとの協力に関する戦略の策定作業は完了しつつあり、今年9月にも採択される予定である。また、ウズベキスタンのエネルギー部門改革と再生可能エネルギー発展にかかる長期プログラムの共同策定作業も行われている。

ウズベキスタンとEBRDは、主要経済部門の改革戦略の策定と実施、企業民営化の準備、官民パートナーシップ・メカニズムの導入、地域総合開発、民間投資誘致といった分野における連携の可能性についても検討を行っている。

エネルギー・セクター

ウズベキスタンの石油生産量は減少しているが、ガソリン生産量は増加

2018年上半期の石油生産量は37万5,200 tで、前年同期（41万5,500 t）に比べて9.7%減少した。一方、石油輸入量の増加により、ガソリン生産量は前年同期比3.1%増の56万 t、

ディーゼル燃料生産量は17.9%増の55万7,200 tであった。天然ガスの生産量は引き続き増加しており、前年同期比6.3%増の245億m³であった。ガスコンデンセートの生産量も増加した。

政府直轄の原子力庁(ウズアトム)設立

原子力エネルギー開発庁(ウズアトム)は、ウズベキスタンにおける原子力エネルギー開発・利用分野の統一国家政策およびプロジェクトの策定と実施を担当する機関として設立された。設立に関する大統領令は7月19日に署名された。

2018年10月1日までに、法案「原子力エネルギーの平和目的での利用について」が策定される予定である。また、2018年末までに「2019～2029年のウズベキスタン共和国における原子力エネルギー開発コンセプト」案が策定される予定である。そして2019年中に原子力エネルギー開発のための投資プロジェクトのポートフォリオが確定され、然るべき国家プログラムが策定される。さらに、ウズベキスタン国立大学とサマルカンド国立大学において専門家の育成が行われ、原子力エネルギー分野の人材育成にかかる諸外国との協力が拡大される予定である。

現在、原子力エネルギー分野における主要なパートナーはロシアのロスアトムである。2028年までのウズベキスタン初の原子力発電所建設に関する協定が締結されている。この原子力発電所は出力各1,200MWのプラント2基から成る予定である。また、タシケントにモスクワ工学・物理学大学の支部が開設される計画もある。

現在のウズベキスタンの電力消費量は690億kWhである。そのうち約85%がガスと石炭を燃料とする火力発電により、残り15%は水力発電により生産されている。発電燃料として天然ガス165億m³、重油8万6,000 t、石炭230万 tが消費されている。公表された推計によると、原子力発電所の稼働により天然ガス約37億m³が節約される。

中国輸出入銀行の融資により三つの水力発電所群の近代化を開始

このプロジェクトには、シャフリハン水力発電所群、タシケント水力発電所群、ニジネ・ボズスイ水力発電所群の近代化が含まれる。事業費は総額7,400万ドル超で、そのうち6,300万ドルを中国側が供与する。各設備の近代化を一手に引き受けるのは中国のPower Chinaである。三つの発電所群の稼働開始は2020年に予定されている。

現在ウズベキスタンで稼働している36の水力発電所のうち25は1940～1980年代に建設されたもので、その多くがすでに耐用年数を超えている。特別プログラムの枠組みにより42の発電所の新規建設および32の既存の発電所の近代化が中期計画として予定されている。2018年は、総額3億6,460万ドルのプロジェクト10件が実施されている。専門家の推計によると、ウズベキスタンの水資源により年間274億kWhの発電が可能である。現在はそのうち約24%しか利用されていない。

米国企業がウズベキスタンのエネルギー部門に対する関心を表明

具体的には、米国のHalliburtonとウズベクネフチェガスが外国市場における共同販売の可能性について協議を行っている。また、報道によると、両社は、Halliburtonのウズベキスタン駐在事務所開設、生産量の少ない井戸における液体炭化水素資源の生産量を増やすための連携スキームの確定作業の継続につき、合意に達した。

ウズベクネフチェガスとHoneywell UOPは、ウズベキスタンの石油・ガス部門の企業においてHoneywellの技術を利用することで合意した。Honeywellはウズベクネフチェガスの子会社の一つにおいてガス分離ユニットSeparexの試験を実施する。良い結果が得られた場合、ウズベキスタン国内の他のガス精製プラントへのこの技術の導入についても検討が行われる予定である。

今後、Honeywell UOPとの間で、天然ガスを原料としてメタノールを製造し、メタノールからオレフィンを合成するプラントの建設プロジェクトの実施についても検討が行われる予定である。事業費は総額32億ドルとされている。

輸送・機械工業セクター

2018年上半期のウズベキスタンの乗用車生産台数は9万4,370台超に

2017年のGM Uzbekistanの乗用車生産台数は14万247台であった。2018年上半期の同社の（主要な市場である）ロシアにおける販売台数は前年同期比17%減の5,180台であった。なお、2018年6～7月、GM Uzbekistanはロシアにおける自動車の販売を停止したが、公式声明によると、これは同社の価格政策の見直しによるものである。ロシア市場におけるGM Uzbekistanのシェアは、2017年上半期の0.7%から2018年同期には0.5%に縮小した。

ウズアフトサノアトの各子会社は2018～2021年に総額2億9,090万ドルの投資プロジェクト10件を実施する計画である。乗用車の新モデル開発に6,510万ドル、商用車の新モデル開発に1億1,070万ドルが投資される計画である。